

# 同窓会だより

## 会長就任 3 期目を迎えて

新潟大学歯学部同窓会 会長 多和田 孝 雄



今年の 4 月に歯学部同窓会長として 3 期目を迎えました。役員も旧役員がほぼ全員残留し、更に新たな役員も加わりこれまで以上に活発な同窓会活動が期待されます。私は平成16年の就

任時より会員に分かりやすいスローガンとして「会員一人ひとりを大事にすることにより、会員からも大切にされる同窓会づくり」、「会員にメリットのある同窓会づくり」、「強い同窓会づくり」を掲げて参りましたが、役員各位のその趣旨に沿った努力と協力によりこれまで予想以上の成果を上げてきました。就任時、右肩下がりであった、同窓会費納入率は V 字反転し、毎年平均 2 % の上昇を記録しております。役員に感謝しなければなりません。

上記のスローガンに沿って事業を進めておりますが、今年度からは歯学部後援会や歯学部とも連携して、6 年生の国家試験対策支援に取り組んでおります。後援会の有松美紀子会長と佐藤圭一副会長の積極的な働きかけにより、本年 6 月 26 日に後援会主催の歯学部 5 年生及び 6 年生を対象とした「国家試験合格体験談を聞く会」が開催されました。多くの学生が現研修医のプレゼンテーションに聞き入り、彼らへの大きな啓発になりました。

昨年度より開始した求人・求職支援事業、歯科医院承継支援事業で、マッチメイキングはまだですが、同窓会室には多数の情報が届いており、逐次会員に開示しております。また、運営して初めて気付く改善を要する部分もあり、その都度修正しております。今後、この事業は会員の就職や開

業において大きな比重を占めるものに育つと考えております。

本年度の重点事業の一つに賛助会員の勧誘があります。これは本学の歯学科及び口腔生命福祉学科卒業生を除く歯学部関係者を対象としたもので、新潟大学歯学部に関心を持つ方を同窓会会員として受け入れるというものです。

歯学部に関心ある現在または過去に勤務された方々、後援会会員、技工士学校卒業生及び同窓会事業に賛同するその他の方々に入会をお願いしております。卒業生による同窓会組織は磐石に成りつつありますが、これらの方々にも御協力をいただくことにより、歯学部支援を機動的に行える組織を確立したいと考えます。

本年 7 月 12 日(土)開催の全学同窓会理事会及び新潟大学と全学同窓会の懇談会において、学部横断的研究発表会として「新潟大学会(仮称)」の設立を提案して賛同をいただきました。この会は単なる学内の研究発表会に止まらず、広く企業の研究者や行政の担当者にも発表の場を提供し、一般市民も受講できるというものです。実現は未知数ですが発想の原点は新潟歯学会ですので、歯学部関係者には特にご支持をよろしくお願い致します。

## 平成20年度同窓会総会を終えて

副会長 野 村 修 一

寒の戻りを感じた 3 月が去り、一気に暖かくなって桜前線が駆け抜けた、4 月 26 日(土)に平成 20 年度歯学部同窓会総会が開催されました。今年も、総会学術講演会(講師:富沢美恵子教授)が終了した後、午後 4 時 20 分から行われました。

開会に先立ちこの 1 年間で亡くなられた、森田実先生(9 期・平成 20 年 1 月 9 日逝去)のご冥福



を祈り全員で黙禱を捧げました。

先ず、多和田会長から挨拶があり、会長3期目の活動方針が披露されました。「会員一人ひとりを大事にすることより、会員からも大切にされる同窓会作り」、「会員にメリットのある同窓会作り」、「強い同窓会作り」を今後も基本方針としていくことが示されました。次に、平成20年度同窓会役員として、監事に神保陸郎先生（3期生）と高木律男先生（10期）が再任されたことが報告され、役員名簿と新任役員の紹介がありました。

その後、鈴木総務理事の議長の下で、平成19年度事業報告、平成19年度一般会計および特別会計決算報告、平成20年度活動計画が満場一致で承認されました。引き続き協議に移り、平成20年度予算案、賛助会員に関する規約、会則の変更・修正などが慎重審議の結果、原案通り承認されました。

協議題の中から報告したい事項を次に挙げます。多和田会長から懸案の「同窓会館取得」に向けて、設置する場所や具体的なタイムスケジュールなどについて提案があり、出席者から忌憚のない意見が交わされ、引き続き検討していくこととなりました。また、多和田会長から賛助会員は同窓生（新潟大学歯学部卒業）以外で、新潟大学歯学部や新潟大学病院に在籍する（あるいは過去に在籍した）教員や職員、あるいは歯学部附属技工士学校卒業生、歯学部後援会会員の皆様にも同窓会に入会して頂き、多方面から歯学部を支援することが目的である旨の説明がありました。学生表彰制度は歯学部学生（準会員）個人あるいは所属する団体が、学業成績、学術研究活動、課外活動、社会活動などにおいて顕著な成果を挙げ、高い評価を受けた時に、同窓会長名で表彰するものです。これまでも学生表彰に値する事例がありましたが、制度が整っていなかったため同窓会として表彰できなかったことから、暫定案ではありますが議決してもらいました。

総会終了後は「まつや（学校町2）」に会場を移して、会員懇親会が行われました。富沢教授、同窓会新潟県支部役員の先生方も参加され、例年以上に多数が集まり大いに盛り上がりました。

## 平成20年度歯学部同窓会 総会学術講演会

「口腔生命福祉学科4年間の歩みと今後の展望」

### 口腔生命福祉学科の更なる発展を願う

5期生 深井仁子

同窓会の学術講演会の案内を受け取った折、同期の富沢先生の新設学科についてのお話と知り、先生の講演をお聞きするのも殆ど始めてで、是非参加したいと思いました。

高齢化する社会の中で、口腔生命福祉学科の役割は大切だと思います。私の母も80歳を超え、数年前から時折、38度代の発熱を伴う肺炎を起こす様になりました。夜、睡眠前に精神安定剤を服用して、空腹を覚えて何かを食べるのですが、そのまま眠ってしまい、誤嚥性肺炎を起こした様にも考えられています。普段は介護の必要も無く、元気で自立している母ですが、更に介護が必要な方ではより注意が必要ですし、口腔内の衛生管理も含めて介護と口腔は関係が深いと思います。

当日は歯科大6年生の娘を伴い、久しぶりに講堂に向かいました。そして講師紹介の後、富沢先生の講演が始まりました。コーラスで培った良く通るやや低い声に引き込まれて行きました。

口腔生命福祉学科は平成16年に新設され、平成20年3月には卒業生も出ました。

#### 1. 設置時の構想

高齢化社会に向けて、学科新設にあたり、歯科衛生士と社会福祉士の2つの国家資格を取れる学科という事で、意気込みを感じました。

#### 2. 学生教育

学生への教育システムにPBL（Problem-based Learning、問題発見・解決型学習法）を取り入れ、学外で行われる臨床実習も実施され、教員の方は大変だと思いますが、学生にとっては有意義な方法だと思います。

#### 3. 卒業生への就職支援

平成20年に一期生が卒業し、就職21名、進学6名が巣立ちました。2つの国家資格を生かした職





口腔生命福祉学科の更なる発展を願って止みません。富沢先生、解りやすいご講演を有難うございました。

## 2007年度第2回歯学部教授会 同窓会定期協議会開催

渉外担当理事 飯田明彦

標記会議の議事要旨を以下に示します。



1. 日 時：2008年2月27日(水) 19時～21時
2. 場 所：歯学部特別会議室1
3. 出席者：
  - 大学側；前田学部長、齊藤副病院長
  - 同窓会側；多和田会長、成田副会長、宮野副会長、鈴木副会長、佐藤専務理事、飯田渉外担当理事

場を求めそして開拓するのが、これからの課題かも知れません。富沢先生から、これまでの歯学部同窓会からの支援と協力に対して、謝意が述べられました。開業医でも衛生士さんを伴って往診に伺う事があると思います。その時に衛生士さんが介護の知識も詳しくければ、より助けになると想像出来ます。

#### 4. これからの展望について

最近では、仕事に性差が無くなり、男性の看護師、保育士を見かける事も多くなり、力強く感じております。歯科衛生士の資格のある男性が福祉の場でその力を発揮できたら、心強いのではないのでしょうか。

口腔生命福祉学科の学生達は私達の子供の年代です。講演を聴きながら、富沢先生の学生への田性愛を強く感じ、学生はその愛を受けて幸せだと思いました。“食べる”“食べられる”事は何事にも増して生活を楽しくする要素です。今年の4月には大学院口腔生命福祉学専攻が開設され、更に高度な専門職業人を養成して、食に係わる人々の生活の質の向上を目指すと言う目標は大切だと思います。

4. 報告ならびに審議事項
  - 1) 学部長報告
    - i) 平成20年度概算要求内示事項
      - ・口腔生命福祉学科に定員6名の口腔生命福祉学専攻が設置される。2年間のマスターコースである(新規)。
      - ・大学間連携研究「口腔からQOL向上を目指す連携研究」の承認。イニシアチブとして予算の5割程度が配分される予定(新規)。
      - ・X線マイクロアナライザー(更新)。  
以上が内示された。  
他の大学に比べ採択数が多い。
    - ii) 教員人事
      - ・摂食・嚥下リハビリテーション学分野教授に井上 誠先生(24期生)が内定した。
      - ・う蝕学分野の子田准教授の定年前退職に伴い、吉羽邦彦先生(14期生)の准教授昇任が内定した。
      - ・歯科補綴学系分野教授については選考中である。発令は6月1日になる予定だが、主にクラウンブリッジの研究、教育、インプラント診療のできる人材を募集しており、補綴系分





野 2 教室の再編も視野に入れている。

- ・硬組織形態学分野の江尻貞一先生（9 期生）が朝日大学の教授に内定した。

iii) その他

- ・歯学部小会議室の改修工事が終了した。五十嵐地区との双方向講義システムも組み込まれている。
- ・学部 1 階、2 階のトイレの改修を行っている。
- ・山田好秋前学部長が副学長を兼務することとなった。プロジェクト推進、国際交流を担当する。

なお、口腔生命福祉学専攻設置記念式典にあたって、同窓会に経済的支援をお願いしたい旨要望があり、善処することとなった。

2) 副病院長報告

i) コーンビーム CT

7 月にコーンビーム CT が導入される。インプラントの診査や根管治療などにも応用できる精細さを有しており、開業医にも開放していく方針である。

ii) 中央診療棟

平成21年11月に病院中央診療棟が竣工する。手術部、検査部、救急救命センターなどが入る。その後、平成24年には医科、歯科合

同の外来棟が完成する予定。面積の確保などについて医科側と折衝している。歯科としてもユニット数の見直し、それに伴うユニット稼働の効率化を行っていく。

iii) 患者数

本年度の患者数は微減している。

駐車場が空いてくる午後も新患受付を行っているので病診連携を推進してほしい旨要望があった。

3) 同窓会から

i) 全学同窓会交流会（11/1）について  
学部長、病院長の出席をお願いした。

ii) 同窓会入会式（3/24）について  
学部長のご挨拶をお願いした。

また、学生に対して新潟大学カードの案内を行う旨報告した。

iii) 同窓会支部長会議（8/24予定）について  
大学側からの出席をお願いした。

iv) 同窓会館について

大学の中につくるのか、学外にするのか検討中である。旭町地区再開発計画との関連もあり、今後も大学側と連絡を取り方向性を検討していくこととなった。

以上

